

日本記者クラブ賞・同特別賞 受賞者決定

尾崎真理子・読売新聞文化部長に日本記者クラブ賞 特別賞はジャーナリストの堀川恵子氏に

公益社団法人日本記者クラブ（伊藤芳明理事長）は4月27日、理事会を開き、読売新聞東京本社編集局文化部長の尾崎真理子さんに2016年度の日本記者クラブ賞を贈り、ジャーナリストの堀川恵子さんに日本記者クラブ賞特別賞を贈ることを決めた。

尾崎真理子さんは文芸記者として、多くの作家を取材し、作家本人も気づかないような証言を引き出してきた。特に、児童文学者の石井桃子氏を息長く取材した『ひみつの王国 評伝 石井桃子』（新潮社）は戦前、戦中、戦後を通して書くことにこだわった女性文学者を描ききり、女性記者による出色の評伝としてジャーナリズムにインパクトを与え、日本記者クラブ賞にふさわしいと高く評価された。

堀川恵子さんは著書『原爆供養塔 忘れられた遺骨の70年』（文藝春秋）で被爆者の遺骨を納めた原爆供養塔を取り上げ、原爆投下70年の節目の年に核兵器の非人道性を新たな角度から浮き彫りにした。ほとんど知られていない原爆供養塔の関連文書の発掘から、遺族を探し出しての聞き取りまで、労力を惜しまない徹底した取材力が高く評価された。

6月7日に受賞記念講演会を開催

2016年度日本記者クラブ賞を受賞した尾崎真理子記者が、著書『ひみつの王国 評伝 石井桃子』執筆の苦労話や文芸記者の仕事について、同特別賞を受賞した堀川恵子氏が『原爆供養塔 忘れられた遺骨の70年』ほか、これまでの作品の取材上のエピソードや調査報道の意義について語ります。参加者の質問に答えていただく時間もあります。日本記者クラブ会員だけでなく、一般の方も参加できます。

出席者：尾崎真理子・読売新聞東京本社編集局文化部長
堀川恵子・ジャーナリスト

日時：6月7日（火）午後6時～8時

会場：日本記者クラブ 10階ホール

定員：200人（申し込み先着順）

参加費：無料

日本記者クラブ会員だけでなく、一般の方も参加できます。ご希望の方は下記の要領でお申し込みください。

<応募方法> 住所、氏名、電話番号、年齢、参加人数（2人まで）を記入のうえ、メールでお申し込みください。折り返し参加の可否をご連絡します。

申し込みアドレスはこちら kinenkoen@jnpc.or.jp

*折り返し参加の可否をご連絡します。

*いただいた個人情報には本講演会以外の目的には使用いたしません。

【贈賞の理由 受賞者の紹介】

日本記者クラブ賞

尾崎真理子（おざき・まりこ）氏
読売新聞東京本社編集局文化部長



文芸記者として、多くの作家を取材し、作家本人も気づかないような証言を引き出してきた。特に、児童文学者石井桃子（1907～2008年）を息長く取材した『ひみつの王国 評伝 石井桃子』（新潮社）は戦前、戦中、戦後を通して書くことにこだわった女性文学者を描ききり、女性記者による出色の評伝としてジャーナリズムにインパクトを与え、高く評価された。

晩年の石井桃子本人にインタビューを何日も続けただけでなく、知人を訪ね、石井の膨大な手紙を入手し、関連書を広く集め、証言と資料を積み重ねて実像に迫った。だれも知らなかった内面に光をあて、時代を切り取り、読者にわかりやすく提示した作品であり、ジャーナリズムの成熟に貢献した。

日本を代表する著名な作家を数多く取材し、優れた記事を書いている点も評価された。地方支局に配属されたり育児休業を取った女性記者の最初の世代の一人であり、その活躍は若い女性記者にとっても刺激となっている。

尾崎真理子記者は1959年10月18日、宮崎県生まれ。56歳。青山学院大学文学部史学科卒業。82年読売新聞社入社。静岡支局、婦人部（現生活部）などを経て、92年から文化部。93～2003年まで文化面の「文芸月評」欄を担当する。文化部次長、編集委員を務め、15年から文化部長。著書に『現代日本の小説』（ちくまプリマー新書）、『瀬戸内寂聴に聞く寂聴文学史』（中央公論新社）、『大江健三郎 作家自身を語る』（大江氏との共著、新潮文庫）、『ひみつの王国 評伝 石井桃子』（新潮社）。同書で15年春、芸術選奨文部科学大臣賞、新田次郎文学賞を受賞。

日本記者クラブ賞特別賞

堀川恵子（ほりかわ・けいこ）氏
ジャーナリスト

堀川恵子さんの著書『原爆供養塔 忘れられた遺骨の70年』（文藝春秋）は、被爆者の遺骨を納めた原爆供養塔を取り上げ、原爆投下70年の節目の年に核兵器の非人道性を新たな角度から浮き彫りにした。ほとんど知られていない原爆供養塔の関連文書の発掘から、遺族を探し出しての聞き取りまで、労力を惜しまない徹底した取材力が高く評価された。また、掘り起こした事実を的確に伝える、抑制が効いた筆力も評価された。

さらに、『死刑の基準—「永山裁判」が遺したもの』（日本評論社）、『裁かれた命—死刑囚から届いた手紙』（講談社）など司法を中心としたこれまでの著作や、広島テレビ放送勤務時代の経験を生か



したテレビのドキュメンタリー番組制作でも、これまで多くの実績を残しており、フリー・ジャーナリストとして高いレベルでの達成を継続させている。

堀川恵子氏は1969年11月27日、広島県生まれ。46歳。広島大学総合科学部卒業。92年広島テレビ放送入社。報道記者、ディレクターを兼務した後、2004年に退社。以来、フリーランスのジャーナリストとして番組制作に取り組むとともに、ノンフィクション作品を執筆。著書に第32回講談社ノンフィクション賞を受賞した『死刑の基準―「永山裁判」が遺したもの』（日本評論社）、第10回新潮ドキュメント賞を受賞した『裁かれた命―死刑囚から届いた手紙』（講談社）、『永山則夫―封印された鑑定記録』（岩波書店）、『教誨師』（講談社）などがある。

* * * * *

【日本記者クラブ賞と日本記者クラブ賞特別賞について】

日本記者クラブ賞は、千葉雄次郎氏（元日本新聞学会会長）が同クラブに贈った寄託金を基金として1972年、創設された。その後も、クラブへの寄付金を基金に積み増し、賞を運営している。報道・評論活動などを通じて顕著な業績をあげ、ジャーナリズムの信用と権威を高めた日本記者クラブ会員および法人会員社に属するジャーナリスト個人に贈る。今回の尾崎氏を含め、受賞者は計51人になる。

日本記者クラブ賞特別賞は、クラブ賞創設40年を機に、より開かれた賞をめざして2012年度に新設された。原則としてクラブ会員以外の内外のジャーナリストやジャーナリズム活動に贈る。ジャーナリズムの向上と発展につながる特筆すべき業績や活動を顕彰する。

いずれも日本のジャーナリズムの高い水準を示す表彰であり、日本記者クラブの公益目的事業のひとつである。

日本記者クラブ賞歴代受賞者一覧 <http://www.jnpc.or.jp/activities/award/awards-prize/>